

平成 30 年度黒部市総合教育会議 議事録

開会年月日
会場

平成 30 年 11 月 27 日 (火) 午後 3 時 30 分～4 時 25 分
黒部市役所 201・202 会議室

出席者
(6 人)

市長 大野 久芳
教育長 国香 正稔
教育委員 川崎 正美 (教育長職務代理者)
前田 潤
加藤 昌弘
雪山 俊隆

出席職員
(13 人)

<市長部局>
総務企画部長 御田 泰晃
総務課主幹 (総務課長代理) 浦田 武治
総務課 課長補佐・行政係長 武隈 涉
<教育委員会事務局>
教育部長 長田 行正
事務局次長・学校教育課長・学校給食センター所長 能登 昌幸
生涯学習課長 島崎 豊
スポーツ課長・フルマラソン推進班長 橋本 正則
図書館長 川端左起子
こども支援課長 藤田 信幸
学校教育課 学校教育班長 齊藤 誠
生涯学習課 ジオパーク推進班長 川添 礼子
図書館 主幹 中嶋ひとみ
学校教育課 庶務係長 前林 丈雄

会議開始

午後 3 時 30 分

事務局

総合教育会議を開会する。開会にあたり市長から挨拶をいただく。

市長

私にとって、市長就任後、初めての総合教育会議となる。

教育委員各位には日々各所でご活躍いただき感謝と御礼を申し上げます。

定例教育委員会に引き続いての総合教育会議にご臨席賜った。総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により設置されたものとなる。この時期に開催する意味としては、次年度の教育予算をどうするかということが中心になるだろうと理解している。また、教育大綱の策定時には有意義な意見を賜ったということも伺っている。

自身は青年団活動を通じて全国を回るなどして社会教育関係に携わり、さらに PTA 活動にも関わった。このほか、体育協会や婦人会、健全育成関係団体、文化団体、スポーツ団体などに関わり、今の自分がいる。

教育は幅広いものであり、中心は学校教育であると思うが、生涯学習、文化・スポー

ツ分野もある。関係する事業として、直近では、(仮称)くろべ市民交流センター、シアター・オリムピクス、ジオパークなどがあり、改めて教育の分野は広範囲である。このような状況において、総合教育会議に課された課題はますます大きくなっていると思う。市と教育委員会が、一層強固な関係を構築し、お互いが意思疎通を図り共通認識のもと教育行政を進めていくための場と考えている。

忌憚のないご発言のもと、会議が有意義のものとなるようお願いしたい。
(以降の進行は、市長による)

市長

次第に基づき進めていく。はじめに、「黒部市教育行政に関する意見交換」を行いたい。まずは、教育大綱や教育方針で示されている当面の課題、取組を含めた黒部市の教育全般について、ご発言いただきたい。

委員

◎市長の教育行政に対する基本的な考え方について

*市と教育委員会において今まで以上に共通認識を大切にしたいとの話があった。総合教育会議の役割の一つに、大綱の策定があり、「黒部市教育大綱」は平成30年度～34年度の5年間の期間として昨年度策定した。しかしながら、大綱は総合教育会議において市長と教育委員会が協議し見直しを行うことができるとなっている。まずは、市長の教育行政に対する基本的な考えを伺い、教育委員会としても協議し、必要に応じて見直しをすればよいのではと考えている。今後は、「黒部市教育大綱」及び「黒部市教育の方針」に基づき教育行政を進めていくことになるので、次年度の重点事業等についても、この後、市長に具体的な要望や意見を伺いたいが、市長の教育行政に対する基本的な考え方をお聞かせ願いたい。

市長

○市長となり「黒部市教育大綱」を拝読した。現在、大綱の初年度であるが、相当議論されてまとめられたものと思っており、突然修正するといったことは有り得ない。今までの検討経緯も踏まえ、まずはしっかりと取り組むべきと考えている。内容についても特に違和感というものはない。

○学校教育だけが議論される場合があり、それは柱ではあるだろうが、教育とは、家庭、地域、年代的には子どもから青少年、女性も含めて関係する。公民館を中心とした生涯的な活動、趣味や特性を活かした芸術文化活動、さらにはスポーツ振興などが総じて高まっていくというところに教育という存在があるのではと思う。芸術文化、スポーツはさらに進んでいくと、競争心が生まれてくる。特にスポーツなどは順位を決める。ただやっているだけではなく、能力を高める、技術を高めるという意識を持った選手が出てくる。これくらいのレベルでいいという人も出てくる。そのレベルに応じたスポーツの教育もあると思う。それが逸脱すると、厳しい指導や体罰に至ることが考えられるので注意する必要がある。

○大綱に代わるものとして、教育振興基本計画なるものがあり、当該計画を策定した場合、それをもって大綱に代えてもいいとされている。黒部市はそのように取り込まれるかと思ったが、しっかりと大綱を策定された。市長になり7か月が経つが、大綱を大切にして教育行政に取り組んでいきたい。

委員

◎(仮称)くろべ市民交流センターについて

*市民の声を吸い上げながら進めていると思うが、今後の希望としてお願いしたい。市民が活動する場所として、例えば本を借りることもあるだろうが、逆に貸す立場にな

って参加するといった形での活動ができれば、大勢の人が利用している総合体育センターと同様に、活気が出てくると思う。利用する立場と提供する立場の双方で市民が関われば、賑わいの創出に繋がる。

市長

○同感である。ここまで積み上げてきたものを勘案しつつ、建物が完成した後、どのように運営するか、どのように活かしていくかが重要である。立地条件から新庁舎との関係が近く、どのように有機的に結びつけるかが大切である。市民交流センターは非常に幅広く老若男女が相集う施設になることは間違いない。担当課で検討しているが、建物が完成した後、市民がいかに関わり合えるかについてウェイトをかけて構築していく必要がある。

委員

◎(仮称)くろべ市民交流センターに関する講演会に参加して
*先日開催された講演会において、講師から塩尻市の次世代型図書館、図書館を核とした施設について説明があった。黒部市も塩尻市を参考にして、黒部ならではの交流センターを建設するというパンフもいただいた。今後も講演会の開催や交流センター建設の進捗状況について時宜を捉えて発信するなど、市民への周知に努めてもらいたい。情報発信とともに市民から意見をもらい、市民が交流、活動ができる図書館を核とした交流センターになればいいと思う。市民の声を活かしていただきたい。

市長

○非常にいいご指摘である。私自身、黒部市立図書館と関わりを持ってから40年程が経つ。図書館協議会委員を務めたり、図書を愛する会を立ち上げたり、その後会長を務めるなど、図書館には相当の思い入れがある。ただし、私だけの考えで進めることはよろしくない。図書館をよく知る方々と話をする機会があるが、図書館が形骸化しては意味がないので、人が訪れる図書館であること、子育て支援センターとの有機的なつながりを持たせること、塩尻市の視察を踏まえた内容とすることなどを話題としている。ご指摘のあった部分については、しっかりと押さえながら、交流センターの意義について、なるべく多くのコンセンサスを得るよう努めたい。

委員

◎学校訪問による授業の見学を通して
*義務教育の授業を見て、教員が一生懸命頑張っておられるところを拝見した。特別な配慮を必要とする児童生徒が多くなっている印象を受けた。教員とスタディメイトが連携して授業を進めておられた。今後、配慮を必要とする児童生徒がさらに増えることが想定される。スタディ・メイトが参加することで、教員の働き方改革という面もあるが、負担軽減につながることから、スタディ・メイトの拡充をお願いしたい。中学校では座席表があり教員が配慮すべき生徒にチェックをして対応していたが、1人ではなかなか大変であると感じたので、よろしくをお願いしたい。

市長

○対象人数としては少数かもしれないが、非常に重要な問題である。市町村で考えるレベルは限られており、国や県の体制についてもこちらから要望しつつ取り組んでいくことが大切である。市単独では財政的にも大変であり、国や県に実状を訴えながら、少しでも支援体制を取っていききたい。

委員

◎小中学校で増えている不登校について
*中学校で開設されている特別支援教室に臨時職員を配置する予算があるが、実際に不

登校だった生徒が特別支援教室に通うことになった話を聞いた。その生徒は学校に行かなくなり、授業についていけなくなった。そのため、ますます学校に行かなくなった。しかし、特別支援教室に通い、少しずつ勉強が分かるようになってきて、不登校の理由は些細なことが原因で、勉強が分かるようになり楽しくなってきたとのことであった。特別支援教室に教員を配置してほしいという要望があるが、不登校による学力低下に対しての支援体制が重要であると思う。

市長

○私の母校である高志野中学校で学校評議員も長く務めたが、質問に対し、学校側から包み隠さず説明をいただいた。不登校の状況等を聞いて、非常にデリケートな問題であると感じた。人数的には少数かもしれないが、たかが2、3人ではなく、されど2、3人である。対応の仕方にも違いがあり、個々に合わせる必要がある。同じ対応はできない。違ったケースがあるため、その都度、教員の数が充足していなければ対応できない。大変厳しい問題であり、ごく一部の話かもしれないが、大変重要な話である。支援体制には簡単に言及できるものではなく、教員の配置の問題として、最終的には市単独で教員を採用するという考えもあるかもしれないが、県が教員採用をしている中で、これらをどのように考えてもらえるか。スタディ・メイトの話もあったが、スクール・カウンセラーも含めて、色々な問題に対応していくしかないと思う。個々のケースに合わせ、慌てず、じっくり対応することも大事である。

教育長

*桜井中学校で取り組み始めているが、全国的には実践例がいくつかある。教室に入るとは躊躇ってしまうが学校に来ることはできるという生徒もおり、その場合は学校に来て勉強や友達との会話ができる空間を作ろうということで、特別な部屋を設け特別支援教室として運用している。教員が時間を調整して勉強などの対応をしている。どの生徒も勉強に対しての意欲があり、環境が整っていれば、生徒は取り組んでくれる。教室にまずは入れようということではなく、別に勉強ができる環境を確保するということである。

*市内小中学校において、いわゆる保健室登校という状況は全体としてある。

市長

○学校に来るという意欲があることは大切である。本人と接触する機会が持てるということが重要である。接触が困難になると、間に壁ができ、家族、保護者としても対応に苦慮することになってしまう。

教育長

*そうならないよう、学校に来て、来た甲斐があったと思って、家に帰ってもらいたい。

委員

*保健室登校では授業はしないと認識している。

教育長

*全くしないということではないが、本人の居場所ということである。

委員

*特別支援教室では授業を行うということは、大きなメリットである。

市長

○保健室でも、生徒に合わせて色々に対応している。

委員

*今度、中学校が4校から2校に統合となる。市としても大きな事業である。私は鷹施中学校第一回入学生で学校統合を経験している。元は東布施と白鷹であったが、中学

校1年生のときであり、2つが一緒になるということで多少なりとも軋轢もあった。リーダーシップを取る生徒がいじめを受けた生徒をかばったりしていたが、心配しているのは、統合によってそのようなことが起こり、不登校にならないかということである。今から体制を整え、配慮すべきところは配慮して、統合中学校がスムーズに動いてもらいたいと思う。

市長

○この点は、一番心配しているところである。お互いが違う小学校から来て同じ中学校に通うことになるだけでも心配される点がある。多感な中学生という時期に、何百人と何百人が一緒になり、清明中学校または明峰中学校となる。2020年の開校までにしっかりと対応策を取り、生徒が落ち着いて勉学等に打ち込むことができる環境を整えたい。教育委員の皆さんの知恵も借り、教育委員会職員にも頑張ってもらい、スムーズに2校が開校し、早く生徒が落ち着くよう取り組んでいく。

委員

◎部活動について

*市長は、部活動は何をされていたか。

市長

○私は卓球と、臨時に体操競技をしていた。運動は好きである。

委員

*私は中学校時代に野球をしていたが、教員になってからも野球部の顧問をしていた。黒部市内に赴任して感心したことは、体育協会の協力が素晴らしいと思った。駅伝や陸上競技なども体育協会の職員が参画されていた。地域のクラブ、卓球やバドミントン等であるが、そこに所属している方々が中学校に外部コーチとして参加いただいたこともありがたかった。教員の働き方改革、負担軽減ということもあり、部活動指導員も今年度から配置されているが、改めて地域の方々の力を借り連携しながら部活動に取り組めば、学校や教員にとって大変ありがたいことであると思う。

市長

○私がPTAの役員をしていたときも、教員は学校の授業の対応以外に、部活動に限らず色々と対応されていた。教員の業務は多岐に渡り大変であると思う。働き方改革という観点から教員の多忙化が目目されたが、遅かりしという感があった。教員が部活動指導員を行うことについての問題を指摘したこともあったが、部活動指導員を増員し安定的に運用することが必要である。また、将来的には部活動が廃止となり、校外で活動することになるかもしれない。しかしながら、現実的には部活動ということで、教員と生徒がしっかりと距離感を保ちつつ、教員が関わることは大切である。そこに指導の面から外部の人材が関わるなど、よりよい体制を構築する必要がある。

委員

*市長の話に共感するところがあった。子どもたちの間でも細分化が進んでおり、自分のときは野球が中心で多くが参加していたが、今は様々な競技に取り組んでいる。ぜひ今後も部活動指導員の充実など、環境整備をお願いしたい。

委員

◎生涯学習分野について

*来年シアター・オリムピックスが宇奈月国際会館セレネなどで行われるが、黒部市にとって一つの大きな目玉だと思う。黒部市には、コラーレ、セレネ、黒部市美術館、行政所管ではないがシーラカンス毛利武士郎記念館、また、隣町であるが下山美術館などがあり、文化が豊かな土壌としてハード面から押さえられていると思う。文化面

というのは人の感受性を育て、心豊かなものを育てていくと思うので、ぜひこのシアター・オリムピックスなどを一つの機会として、この分野に注力していただきたい。美術館も大分年月が経っているとのことで、空調面に不具合があると聞いたことがあり、美術品にとって空調面は大変重要であるので、対応をお願いしたい。

市長

- 芸術文化の分野について、黒部市は理解度が低いと言われている。私はこれに反発したが、どのような点で判断されたのか不明である。芸術文化、スポーツもそうかもしれないが、能動的に関わる場合と受動的に関わる場合がある。受動的な部分が多いかもしれないが、能動的というところでは劇団フロンティアなどがあり50年という歴史を刻んでいる。どのような支援が必要かということもあるが、能動的、受動的の両面においてバランスよく芸術文化活動を進展させる必要がある。
- 美術館について、ハード面は気になるところではある。また、美術館開館以来、美術館側で常に企画をしてきたが、一般に貸し出す方法がないのかと思う。今の美術館は受動的である。さあ、何か企画するので、どうぞ見に来てください、ということではなく、高い芸術文化の水準を持つ画家や彫刻家がおられるので、その方々が美術館を貸館として自ら進んで展示会などができればと思う。実施には難しい面もあると思うが、そのように美術館を変えていく必要があるのかと思う。そのためにハード面をしっかりと整備する必要がある。
- 市民自らが参加するという意識が大切である。市美術展など必要な支援を行ってきたい。また、郷土芸能なども、時代が変わってきたこともあるかもしれないが、大切な分野である。

委員

- *芸術文化の分野でもPRが重要である。また、大会などがあり、見てもらうということが活力になる。

市長

- 最近、発表の場が少ない、設けられていない感がある。そのことから、理解度が低いと判断されたのかもしれないが、決してそれだけで判断できるものではない。
- 美術館も、活用の仕方などを含め事務局等とも議論してほしいし、開かれた美術館になれば認知度が上がると思う。

市長

- 婚活の支援は、教育的にということではなく、男女共同参画という視点から教育委員会だけでなく横断的に取り組む必要がある。主管課を設ける必要があることから、主として教育委員会が位置付けられるということである。若年層の婚活に対する考え方をしっかりと捉える必要がある。

委員

- *黒部市は婚活事業に取り組まれているが、今後さらに推進するのか。

市長

- 現在の実施状況を把握し、次年度に向けて検討したい。

市長

- 来年4月にももいろクローバーZが来る。2日間で3万人の観客が訪れるイベントであり、イベントそのものは一過性のものであるが、市民の機運をどのように高めていくか、来訪者に黒部市をどのように認知していただくか、全国に向けて黒部市の認知度をどのように高めていくか、イベント後ではなく、イベント前の取組が重要である。そのような中で、教育的な視点も見えてくる部分があると思う。

委員	*イベント自体は教育委員会の所管ではないと思うが、地域活性化のためのイベントであると聞いており、メンバーも黒部市を訪れているとのことであるが、そのPRがなされていない。
市長	○事前の周知は規制されている。実施後のPRは可能であり、新聞報道以外にも、広報くろべへの掲載などで情報発信に努めたい。
委員	*ファンが聖地として訪れるとのことなので、イベント後も大切である。
市長	○そのような動きが、移住定住につながることも想定されるので、しっかりと対応したい。人が移り住むということは大変大きな出来事である。こういった影響が生じる可能性があることについて、子どもたちにも認識してもらいたいと思うし、その点でも教育という分野が関係してくると思う。
委員	*先ほど黒部市美術館の話があったが、宇奈月国際会館セレネの美術館についても、常設の状態であるので、より有効に活用できるよう検討する必要があると思う。 (意見交換終了)
市長	予定していた事項は、以上となる。進行を事務局に返したい。(市長の進行終わり)
事務局	教育長が閉会あいさつを申し上げる。
教育長	(閉会あいさつ)

閉会